

標準的な仕事から  
独自性のある領域へ

中小企業IT経営力大賞2011 IT経営実践認定企業  
千葉県・歯科技工業 協和デンタル・ラボラトリーの場合

# 自社が力を発揮できるポジションは？ ITで技術者の「助け合い」を推進させる

歯科技工—お世話になって  
る人は多いが接することは少ない  
職種だ。模型を元に入れ歯や差  
歯などの製作・加工を行う。主  
取引先は歯科医院。業界の8割程  
度が1、2人の事業所である。  
そのなかで、社員40人が勤務す  
る会社が、千葉県松戸市の協和デ  
ンタル・ラボラトリーである。木村  
健二社長は業界の現状を見ながら  
自社がどのようなポジションをと  
るべきかを考え、インプラント技

工専門の会社へシフトしてきた。  
「業界の7割くらいは健康保険  
が適用される範囲内の仕事です。  
しかし仕事量は多いものの、速  
く安くが要求され単価が下がっ  
てきていました。付加価値が高く  
技術が活かせる分野がインプラ  
ント技工だったので」  
インプラントは骨の中にチタン  
を埋め込む技法であり、周囲の歯  
に負担をかけないのが特徴だ。た  
だ高い技術が必要とされるため通

常の入れ歯より費用がかかる。健  
康保険適用外であり、この方法が  
選ばれるのは数%という。  
しかし歯科技工士が腕をみが  
き、インプラント技工のプロ  
フェッショナルとなれば、事業は  
伸びていく。それが木村社長の戦  
略だった。  
**CAD/CAMをいち早く導入  
信頼の高さから仕事が増加**  
技工士である社員は学会や各種

講演会で積極的に発表を行い、信  
用を高めている。その結果、全  
国から仕事の依頼がくるようにな  
った。設計と製作にいち早くCAD  
/CAMを導入。ジルコニア・セ  
ラミックスの人工歯を製作するよ  
うになってからは売上が急速に伸  
びている。  
ただ、仕事量の増加に伴い、「職  
人の世界」である社内にも、一  
定の仕組みが必要になった。



インプラント技工物等の  
製作現場



## 会社概要

### 有限会社 協和デンタル・ラボラトリー

千葉県松戸市新松戸3-260-1  
設立：1987年  
従業員数：40名  
事業内容：歯科技工（インプラント、  
義歯、審美等）



代表取締役 木村健二氏

歯科技工士であり、ITや経営  
企画も担当する上嶋美奈氏は次  
のように説明する。  
「製作の予定や順番などは特に明  
確なものがなく、それぞれの感覚  
で行っていました。量が増えて管  
理が難しくなり、生産計画シス  
テムの導入を検討し始めました」  
この構想は千葉県が実施してい

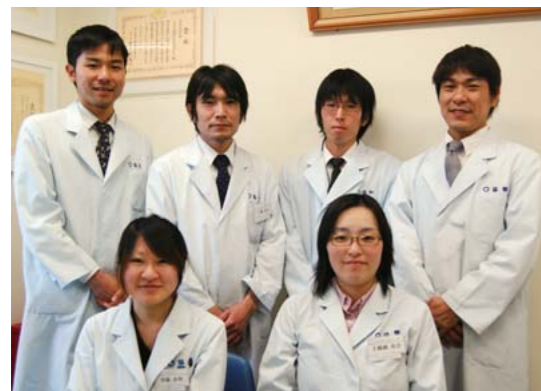
た平成20年度「サービス産業生産  
性向上モデル事業」に採択された。  
あるべき姿に向かって進み出した  
が、途中で足踏みしてしまっ  
た。「理想像は描いたものの、我々は  
ITに詳しくなく、社内で議論し  
ているうちに時間が経ってしま  
いました。『期限までにできそうに  
ありません』と謝りに行ったので  
す」  
木村社長はこう打ち明ける。

## 理想の生産計画システムへ ITコーディネーターが支援

対応策としてITコーディネー  
タの活用を勧められ、千葉県で実  
績のある鬼澤健八氏が急遽、同社  
の支援に入った。

「期限も迫っていたため週1回  
ベースで訪問。業務フローや会社  
の概要を聞き、適切なソフトの候  
補を示すなど、IT環境の整備を  
進めていきました」と鬼澤氏。  
生産計画のソフトは大手企業向  
けの高価なものが多いが、手頃な  
ものが見つかった。  
「受注製作ですので、素材も製  
作方法も1品ごとに変わりま  
すし、試適のために仮納品して  
戻ってから再進行する工程もあり  
ます。これらを明らかにし、納期  
別、担当者などで見られる仕組  
みを運用しています」  
上嶋氏は、システム活用の様  
子をこう語る。誰が行っている  
のか、納期が守れそうかがわか

るのか、納期が守れそうかがわか

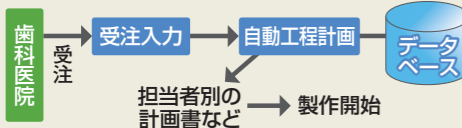


IT経営推進のリーダー 上嶋美奈氏（写真前列右）と  
生産計画システムを進めた「補綴チーム」のメンバー

## 協和デンタル・ラボラトリーのIT活用

- インプラント技工物製作にいち早くCAD/CAMを導入
- 取り扱い量が増え「生産計画をIT化」する必要性

千葉県の平成20年度「サービス産業生産性向上  
モデル事業」に採択される  
しかし、思うように進まない…  
ITコーディネーター鬼澤氏の支援を受け無事導入へ



## サポーター紹介



ITコーディネーター  
鬼澤健八氏  
おにざわIT経営支援オフィス  
(社)千葉IT経営センター 理事

千葉県を中心に企業のIT経営成功事例を輩出し続けて  
いるITコーディネーター。県内の支援機関からも、頼れる専  
門家として依頼が多い。社員の意見をまとめるなど、改革を  
進められる場作りにも定評がある。

協和デンタル・ラボラトリーへは、事業の期限までにシ  
ステム導入を間に合わせるために急遽派遣されたのだが、そ  
の後も月1回のペースで訪問し、支援を続けている。

「ITを進めるには専門家の方がおられて、IT導入には順序  
があるということを知って先生に教わりました」と上嶋氏は振り返る。

2年間の歩みは、「ソフトを入れて、担当者の方々と実情  
に合わせた仕組みを作っていました。まずCAD/CAMの  
チームに導入し、徐々に広げている段階です」（鬼澤氏）と  
のことである。上嶋氏の海外勤務に関する仕組み等も鬼  
澤氏がサポートした。

木村社長は、「歯科技工業界以外の方から客観的に見て  
いただき、外に目を向けられたのは大変良かった。私は「い  
い人」と付き合っていると次が広がると思っています。鬼澤  
先生と出会って中小企業IT経営力大賞に応募する機会を  
得たり、良い方向に進んでいます」と話している。

り、余裕のある人が手伝いに回  
り、余剰の配置にも柔軟性が出た。  
リーダーの計画立案業務は50%削  
減されたという。木村社長は日ご  
ろから「ITは管理されるために  
ではなく助け合うために使う」と  
話しているそうだが、それが実現  
されつつある。

## 技術が評価されれば 海外への展開も視野に

ところがこの4月から、生産計  
画システムの中心人物だった上嶋  
氏がアメリカに居を移すことに  
なった。木村社長は「これでシ  
ステムも終末か…」と思ったが、今  
はインターネットが整備されてい

る。アメリカから社内リモート  
アクセスし、業務を続けられるよ  
うにした。今は逆に、英語力を高  
めて帰国してもらうことに期待し  
ているという。  
今後の展望について木村社長は  
次のように語る。

「新人たちが将来展望を持てる  
よう世界に通用する技術集団を目  
指します。まずは日本中に良いも  
のを提供し、価値を認めてくれる  
人がいればアジア新興国も対象に  
していきます」

顧客から選ばれ、社員が誇りを  
持つて働ける会社であり続けるこ  
とが、協和デンタル・ラボラトリー  
の願いだ。

